

大学と「道の駅」の連携の取組に関する覚書交換式を実施します ～奥津軽いまべつ駅と隣接する「道の駅」いまべつと青森大学の連携～

大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、青森大学と「道の駅」いまべつ及び青森河川国道事務所の3者で連携企画型の取組を行うこととなり、取組みに先立ち、『覚書交換式』を実施することになりましたので下記のとおりお知らせします。

この取組は、国土交通省が大学・「道の駅」へ連携の呼びかけを行ったもので、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するとともに、「道の駅」が地域活性化の拠点を目指して進化を遂げるため、「道の駅」と大学がお互いのニーズを確認し、付加価値を創出する企画・立案等を実施するものです。

記

1. 日 時 : 平成27年10月6日(火) 14:00～
2. 場 所 : 「道の駅」いまべつ(今別町大字大川平字清川87-16)
(別添位置図のとおり)
3. 出席者 : 青森大学 学長 崎谷 康文
「道の駅」いまべつ 駅長 山田 基
青森河川国道事務所長 石塚 宗司
4. 次 第 : 添付資料のとおり
5. 連携内容 : 添付資料のとおり

記者発表先 {青森県政記者会 建設関係専門紙 津軽新報社}

〈問い合わせ先〉

■連携企画の実施内容について

青森大学 社会学部 社会学科 准教授 櫛引 素夫
〒030-0943 青森市幸畑2丁目3-1 電話 017-738-2001(代)(内線731)

■大学と「道の駅」の交流・連携全般について

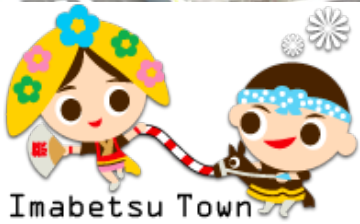
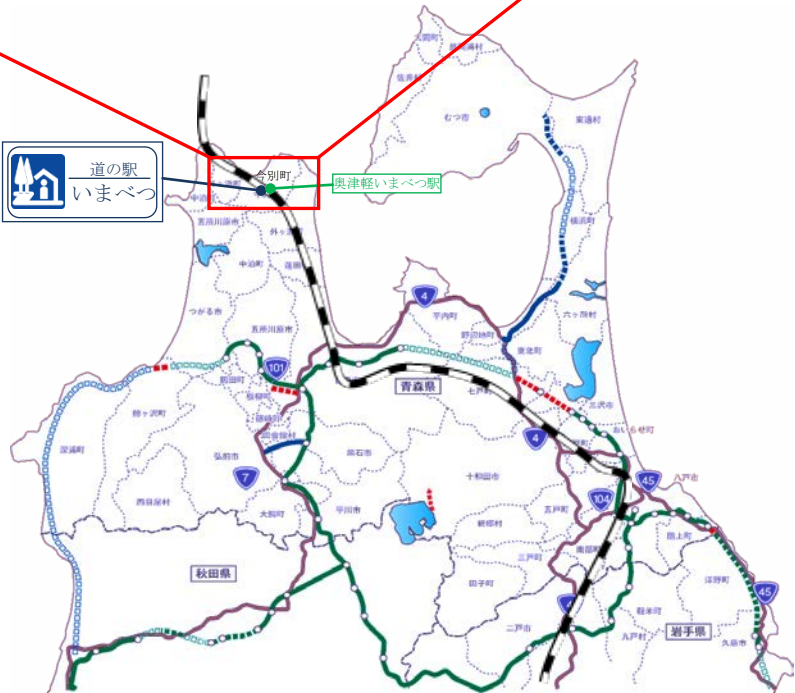
国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所
調査第二課長 佐々木 耕嗣
〒030-0822 青森市中央三丁目20-38 電話 017-734-4570(直通)(内線451)

(位置図)

「道の駅」いまべつ 位置図



(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN



Imabetsu Town

大学と道の駅の連携の取組に関する覚書交換式 次第

日時：平成27年10月6日（火） 14：00～
場所：「道の駅」いまべつ

1. 開 式

2. 覚 書 交 換

青森大学 学長
「道の駅」いまべつ 駅長
青森河川国道事務所長

3. 挨拶

青森大学 学長 崎谷 康文
「道の駅」いまべつ 駅長 山田 基
青森河川国道事務所長 石塚 宗司

4. 連携内容説明

青森大学 社会学部 社会学科 准教授 榎引 素夫

5. 閉 式

青森大学が着手している活動（連携企画型）

◎社会学演習（4年）の授業で、学生2人が聞き取り調査を実施（道の駅いまべつ、国土交通省青森河川国道事務所）



他の学生とも連携、町外から見える課題の提示や有効な支援策・対策を提言へ

- ・今別町の現状の確認
- ・道の駅いまべつ固有の事情や背景の分析
- ・北海道新幹線開業への対応
- ・ネットを活用した情報集積と発信
- ・**県内の他の「道の駅」との比較と検討**



道の駅いまべつ
（6月9日）

青森河川国道事務所
（6月15日）



★就労体験型に取り組んだ学生との連動

- ・青森大学社会学部4年生が8月、2週間にわたり「道の駅なみおか」でインターンシップを体験し、利用者44人への聞き取りなどを通じて、キャンペーン対策やごみ対策などを提言

- 「道の駅」における大学との連携、受入体制を整備し、若者の就労体験や交流の場として活用。
- 地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ地域外の若者が交流することで、新たな価値の創造を図る。
- 道の駅と大学のニーズに応じ、「連携企画型」と「就労体験型」の2種類の形で実施

実施イメージ



これまでの実施例

<連携企画型>

- 京都府亀岡市、南丹市、京丹波町の道の駅
- 京都精華大学の大学生が、道の駅で販売するスイーツパッケージをデザイン



包装デザイン打合せ

- 「かなん」(大阪府河南町)
- 道の駅と大阪府立大学の大学生のコラボによりオリジナル弁当を開発



道の駅弁当「かなん冬の恵み」

<就労体験型>

- 「霧の森」(愛媛県四国中央市)

- ・地元イベントの企画立案、実施補助のほか、道の駅内で製造されている地元名産品の製造・販売の補助を実施。
- ・H25年度は10名受け入れ、うち7名は関西圏の大学から参加

- ・H15からこれまで約110名が実施
- ・そのうち2名が「道の駅」へ就職



大学生が企画したイベント



地元名産品「霧の森大福」

項目	連携企画型	就労体験型
概要	「道の駅」側と大学側でお互いのニーズを確認し、付加価値を創出する企画・立案等を行うもの	「道の駅」の運営業務において、若者の視点、感性やITスキル等を通して新たな行動や発見を期待するもの
内容例	地域巡りツアー企画、商品開発、売場改善 等	イベントの企画・運営、新しい観光資源の発掘 農作業の体験、地元産品を使った商品開発 物産販売の補助、HP等による情報発信の提案・実施 等
期間	通年の授業の中での通いを想定	概ね2週間以上の長期宿泊型を想定 (夏期休暇期間活用)
受入学生	道の駅近傍の大学を想定	全国の大学を想定
受入人数	ゼミ単位(少人数～10名程度のグループを想定)	数名

<連携企画型の事例> ※道の駅ではない事例も含む

○ 観光

- ・地域巡りガイド(跡見学園女子大学)
- ・日帰り観光プラン作成(和歌山大学)

○ 商品開発

- ・地元伝統野菜を活用した道の駅弁当(大阪府立大学)
- ・地場産品を活用したお土産品開発(弘前大学)

○ まちづくり・地域活性化

- ・キャンプ場を起点とした地域活性化(和歌山大学)
- ・ご当地キャラクターの発案・活用(大妻女子大学)



地域巡りガイドの様子

出典)各大学ホームページ参照

<就労体験型の実施スケジュール(イメージ)>

